

佐賀新聞

1124.10.16(水)付

公共事業の絵 優秀作を表彰

最高賞の松永さんら

県内の小学生を対象にした公共事業絵画コンクール(県建設業協会、県建設関連団体連絡協議会、佐賀新聞社主催)の表彰式が14日、佐賀市の県庁県民ホールで開かれ、入賞した児童23人に賞状と記念品を贈った。写真。入賞作を含む44点が20日まで展示される。

同協会の岸本剛会長は「魅力ある作品ばかりで感動した。子どもの目に公共事業が日常的な風景になっているのが伝わり、今後も暮らしに役立つものを作るよう努力したい」とあいさつ。最高賞に輝



いた松永李音さん(長松小3年)らを1人ずつ表彰した。審査員を務めた日展会友で画家の金子剛さんは「多くの作品がイメージしにくい公共事業をうまく捉え、色彩や構成も工夫して心象風景を描いている」と講評した。

コンクールは公共事業の役割や大切さを認識してもらおうと初めて開催。呼子大橋や建設中の新県立病院をはじめ、巨大なダムや虹色に描いた橋など子どもたちの豊かな感性による多彩な作品が集まった。

公共事業絵画コンクール

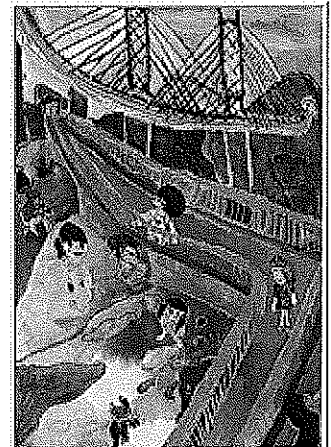
入賞23作品を表彰

C-net通信 1124.10.15(月)付

佐賀県建設業協会ら

佐賀県内の小学生を対象にした「暮らしを支える公共事業絵画コンクール」の表彰式が14日、県庁であった。コンクールは、生活に欠かせない道路や橋、上下水道、災害から暮らしを守るダムなどの公共事業を身近に感じ、その大切さを知ってもらおうと佐賀県建設業協会(岸本剛会長)、佐賀県などが主催。44作品の応募があり、佐賀県建設業協会会長賞など入賞23作品を選んだ。

表彰式で岸本会長は「個性と魅力にあふれた作品に感動しました。皆さんの目から見た公共事業というものを改めて考えさせられ、いかに公共事業が日常の風景に溶け込んでいることも感じました。次の世代を担う皆さんと同じ目線に立って、地域のために役立つ公共事業に取り組んでいきたいと思えます」とあいさつ。このあと、岸本会長、吉野猛県建設・技術課長らが受賞者に賞状を手渡した。



【写真】佐賀県建設業協会会長賞作品(画像クリックで拡大)

応募作品は、▼高学年の部(小5~6年)▼中学年の部(小3~4年)▼低学年の部(小1~2年)の3部門ごとに最優秀賞、優秀賞、佳作を選出。最高の佐賀県建設業協会会長賞には、唐津市の呼子大橋を描いた松永李音さん(永松小3年)の作品が選ばれた。審査委員長を務めた画家の金子剛氏は「子供たちには難しいテーマだったが、単なるスケッチではなく、心象的な風景を描くなどうまく表現していた。身近にある公共事業の大切さを考えるきっかけにしてほしい」と講評した。

応募作品は10月20日まで県庁1階の県民ホールに展示される。



【写真】協会長表彰を受ける松永李音さん

県建設業協会などが初開催

ダム、道路などをテーマに
公共事業絵画コンクール

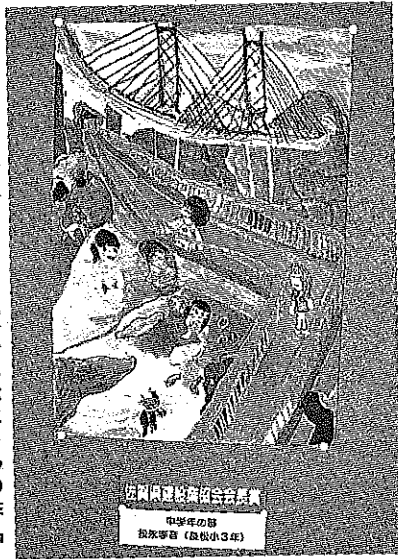
「小学生暮らしを支える公共事業絵画コンクール」の表彰式が14日、佐賀県庁1階県民ホールで行われた。県建設業協会や県建設関連団体連絡協議会の主催で初めて開催。ダム、道路、橋、鉄道駅、空港、上下水道など公共事業によって建設された施設をテーマに、その大切さを伝えるような絵画を募集した。

同コンクールは公共事業の役割や大切さを認識してもらおうとともに、未来を担う子どもたちの豊かな感性と想像力を育むことを目的に実施。44点の応募があり、呼子大橋

を描いた唐津市長松小学校3年生の松永李音さんが同会会長賞を受賞した。鳥栖駅や嘉瀬川ダムを題材にした作品や『夢と荷物を運ぶ道』と書かれた作品もあり、同会の岸本剛会長は「个性的な作品に感動した。素直で心のこもった作品や子どもらしい元気いっばいの絵。次世代を担う子どもたちと同じ目線を持つて、地域の暮らしに役立ちたい」と挨拶。表彰状を手にした子どもたちは嬉しそうに笑顔を見せた。



応募作品は10月14日、20日まで県庁県民ホールで展示される。



県建設業協会会長賞に輝いた松永さんの作品

入賞者23人を表彰

佐建協 小学生対象に絵画コンクール



【佐賀】一般社団法人佐賀県建設業協会（岸本剛会長）は14日、県内小学生を対象にした公共事業絵画コンクールの表彰式を佐賀市城内の佐賀県庁新行政棟1階で開催し、入賞した23人に表彰状を手渡した。写真

は、特別賞の佐賀県建設業協会会長賞のほか、高学年の部（小学校5～6年）、中学年の部（小学校3～4年）、低学年の部（小学校1～2年）の各部門で選出した最優秀賞と優秀賞、佳作の計23点となっている。

岸本会長は「応募作品は、いずれも個性豊かで魅力あふれるものばかりだった。一つ一つの作品を通じて、公共事業が子供たちの目線でどう映るのかを学ばされた」とあいさつ。表彰式では、会長ら審査員が受賞者に賞状と記念品を手渡した。

審査委員長を務めた画家の金子剛氏は「今回募集は公共事業というテーマに沿ったもの。子供には難しいテーマだったと思うが、心から湧き出す感性を上手く描いている」と講評した。今回の作品は、10月20日まで佐賀県庁新行政棟1階の県民ホールにて展示する。